慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	がん支持療法としてのマインドフルネス認知療法の無作為対照試験と内受容感覚の検討
Sub Title	Mindfulness cognitive therapy for cancer patients
Author	藤澤, 大介(Fujisawa, Daisuke) 朴, 順禮(Park, Sunre) 田中, 智里(Tanaka, Chisato) 田村, 法子(Tamura, Noriko)
Publisher	
Publication year	2023
Jtitle	科学研究費補助金研究成果報告書 (2022.)
JaLC DOI	
Abstract	マインドフルネス認知療法をがん患者に応用する研究。2018年度に集団プログラム(週1回2時間×8週間)を開発し、2019年度は様々ながん種や治療設定で活用できるよう、個人療法形式(1回1時間×8回×柔軟な治療間隔；①セッション振返り(約5分)、②ホームワークHW振返り(10分)、③中心的エクササイズ(15-30分)、④エクササイズ振返りと解説(10分)、⑤HW設定(5分の構造)に修正した。がん患者7名に適応して全員が完遂、抑うつ・不安、症状負荷、睡眠で改善を認めた。COVID-19で対面・集団実施が困難となり、オンラインに転換し2022年までがん患者を含む慢性痛患者にて実施可能性が検証された。 Application of mindfulness-based cognitive therapy (MBCT) to cancer patients was investigated. In FY2018, MBCT program in a group format (2 hours weekly, 8 weeks) was developed. In FY2019, it was modified to an individual format (1-hour, 8 sessions in flexible intervals), in order to increase its applicability. The structure of each session was; review of previous session (5 minutes), review of homework (10 min), mindfulness exercise (15-30 min), review of exercise (10 min), and setting homework (5 min). The program was applied to seven cancer patients, under the approval of the ethics committee. All the participants completed the program and showed improvement in depression and anxiety (HADS), symptom burden (ESAS) and sleep. After FY 2020, face-to-face implementation was made difficult due to COVID-19. The program was implemented in an online format to patients with chronic pain (including cancer patients) afterward. The feasibility of the program was demonstrated.
Notes	研究種目：基盤研究 (C) (一般) 研究期間：2018～2022 課題番号：18K07476 研究分野：精神医学
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KAKEN_18K07476seika

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　５ 月 ３０ 日現在

機関番号：３２６１２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ０７４７６

研究課題名（和文）がん支持療法としてのマインドフルネス認知療法の無作為対照試験と内受容感覚の検討

研究課題名（英文）Mindfulness Cognitive Therapy for Cancer Patients

研究代表者
藤澤　大介（Fujisawa, Daisuke）

慶應義塾大学・医学部（信濃町）・准教授

研究者番号：３０３２７６３９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：マインドフルネス認知療法をがん患者に応用する研究。2018年度に集団プログラム(週1回2時間×8週間)を開発し、2019年度は様々ながん種や治療設定で活用できるよう、個人療法形式(1回1時間×8回×柔軟な治療間隔；①セッション振返り(約5分)、②ホームワークHW振返り(10分)、③中心的エクササイズ(15-30分)、④エクササイズ振返りと解説(10分)、⑤HW設定(5分の構造)に修正した。がん患者7名に適応して全員が完遂、抑うつ・不安、症状負荷、睡眠で改善を認めた。COVID-19で対面・集団実施が困難となり、オンラインに転換し2022年までがん患者を含む慢性痛患者にて実施可能性が検証された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究では、マインドフルネス認知療法を集団・個人の両方の形式でプログラム化し、実施可能性を検証した。マインドフルネス認知療法は本来対面・集団療法形式であるが、個人療法形式、および、オンラインでの実施可能性を検討できたことは、今後の国内外における普及において有意義である。当初の計画を変更したが、がん患者を含む慢性痛患者において、不安・抑うつ、痛みの拡大視、内受容感覚における改善が見られ、マインドフルネス認知療法の今後の普及や治療メカニズム解明に資すると考えられた。

研究成果の概要（英文）：Application of mindfulness-based cognitive therapy (MBCT) to cancer patients was investigated. In FY2018, MBCT program in a group format (2 hours weekly, 8 weeks) was developed. In FY2019, it was modified to an individual format (1-hour, 8 sessions in flexible intervals), in order to increase its applicability. The structure of each session was; review of previous session (5 minutes), review of homework (10 min), mindfulness exercise (15-30 min), review of exercise (10 min), and setting homework (5 min). The program was applied to seven cancer patients, under the approval of the ethics committee. All the participants completed the program and showed improvement in depression and anxiety (HADS), symptom burden (ESAS) and sleep. After FY 2020, face-to-face implementation was made difficult due to COVID-19. The program was implemented in an online format to patients with chronic pain (including cancer patients) afterward. The feasibility of the program was demonstrated.

研究分野：精神医学

キーワード：マインドフルネス　がん　うつ病　不安　不眠　緩和ケア

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

(1) がん患者における支持療法の重要性

がん治療の進歩とともにがんの長期生存率は60%近くに達しているが、がんやがん治療に伴う心身の症状を有する患者は多く（Mitchell et al. Lancet Oncol 2011)、QOLの低下、入院治療期間の遷延、抗がん治療からの早期脱落、生命予後の悪化に関連している。症状緩和に資する薬物療法は日進月歩で開発が進んでいるもの、がん患者の症状ケアニーズは十分に満たされているとは言えず、がんの支持療法として薬物療法以外の介入の有用性も検証されてきている（Greenlss H, et al. CA Cancer J Clin 2017）

(2) がんの支持療法としてのマインドフルネスの有望性と課題

マインドフルネスは第三世代認知行動療法の一つで、慢性疼痛や慢性うつ病に対する効果をはじめ（Cherkin DC et al. JAMA 2016、Kuyken W et al. Lancet 2015)、さまざまな心身の症状に有効であることが実証されている。がん患者においても精神症状と身体症状の双方に有益であることが示唆されている（Johannsen M, et al. J Clin Oncol 2016, Greenlss H, et al. CA Cancer J Clin 2017)。一方、既存の研究の大多数は女性乳がん患者を対象としており、他のがん種や男性患者における効果実証は十分といえない。男性前立腺がん患者を対象とした大規模研究では有効性を示せなかった（Chambers SK, et al. J Clin Oncol 2017)。

また、国内におけるがん患者を対象とするマインドフルネス研究の実証は、申請者らが知る限り、平成 27-29 年にかけて申請者らのグループが行った乳がん患者に対するランダム化比較試験（Park S, Fujisawa D, JPSM2020）のみであり、対象者を広げた検証が必要である。

(3) がんの各種症状の基盤としての内受容感覚と介入の可能性

内受容感覚 interoceptive sensitivity とは、自身の心身の状態に関する気づきの感度であり、健常状態では、自律神経系など意識下の調整機能と，意識上の調整につながる気づきの両者が互いに関係し合いながら恒常性の維持に関わっている。大脳島皮質など，大脳辺縁系と新皮質系の連携に関与する部位が重要な役割を果たしており、情動の気づきは副交感神経機能を介した負のフィードバックシステムを形成し情動調整に関与している（Craig D. Nature Reviews Neuroscience 2002)。内受容感覚は、疼痛、倦怠感、食欲などの身体症状や、うつ、不安などの精神症状に大きく関連することがわかってきている（Kadota Y, et al. Biol Psychol. 2010、Karshikoff B, et al. Brain Behav Immun. 2016、Herbert BM, et al. PLoS One. 2012)。マインドフルネス心理療法は内受容感覚を解して症状改善に寄与する可能性が示唆されている（Hanley AW, et al. J Psychosom Res. 2017)。

２．研究の目的

(1) マインドフルネス認知療法が、がん患者の症状負荷の軽減に有益であるかを検証する。

(2) がん患者の症状発現と内受容感覚の関連を検証する。

(3) 内受容感覚がマインドフルネス認知療法の効果の媒介因子であるかを検証する。

３．研究の方法

初年度の 2018 年度は、マインドフルネス認知療法プログラム（集団療法形式）を作成した。2019 年度は、様々ながん種や治療設定で活用できるよう、個人療法形式に修正した。慶應義塾大学病院において、同大学医学部倫理委員会の承認の下、外来がん患者を対象に実施可能性を検討した。2020 年度は COVID-19 のため当該施設で臨床研究が前面凍結となった。その後も、COVID-

19 の状況のため対面・集団でのプログラムの実施が困難であった。そのため、オンライン形式でのプログラム実施の方向へ研究計画の転換をはかった。2020 年後半から 2021 年度はがん患者を含む慢性痛患者に対するオンラインによる集団療法を提供し、実施可能性、効果、内受容感覚の変化を検証した。

４．研究成果

(1) がん患者を対象としたマインドフルネス認知療法プログラム（集団療法・個人療法）の開発

①マインドフルネス認知療法（集団療法）

Mark Williams らの原法に基づいて、マインドフルネス認知療法プログラム（集団療法形式）を作成した（表１）。毎週１回 2 時間×8 週間の構造であった。

表１．マインドフルネス認知療法の内容

回	テーマ	内容	到達目標	ホームワーク
1	自動的な反応に気づく	マインドフルネスについて、レーズンエクササイズ、ボディスキャン、自動操縦、呼吸瞑想	意図を確認。今に集中する、今を感じることを楽しむ	ボディスキャン、日常生活のマインドフルネス(日常生活でのマインドフルネス・習慣に気づく)
2	考えと感情に気づく	ボディスキャン、Being モード Doing モード、呼吸瞑想	自動的に浮かんでくるものに気づく 自分のパターンを認識し始める	ボディスキャン、呼吸瞑想、うれしい出来事日誌、日常生活でのマインドフルネス
3	呼吸と身体に気づく	呼吸瞑想、認知行動モデル、3 分間呼吸空間法を知る（3 分間呼吸空間法)、ストレッチ（座位)、ヨーガ（立位）	心、身体、感情、考えのつながりに気づく 動きに集中し、身体の変化を感じる	呼吸瞑想、マインドフルストレッチ、3 分間呼吸空間法、いやな出来事日誌、日常生活でのマインドフルネス
4	辛さに気づく	座瞑想、不快への反応、ペーシング心理教育、 3 分間呼吸空間法（定期＆応用編として)、歩行瞑想	不快への反応パターンを知る（思考、感情、感覚)、現在にとどまる	3 分間呼吸空間法定期＆応用(不快を感じた時)、座瞑想、歩行瞑想、ペーシング日誌、日常生活でのマインドフルネス
5	あるがままを許す	座瞑想（不快体験の想起を含む)、中間レビュー、立位ヨーガ、ベースライン、3 分間呼吸空間法	不快に対して身体をひらき、反応を観察する	3 分間呼吸空間法定期＆応用、座瞑想、ヨーガ、ベースライン日誌、日常生活でのマインドフルネス

6	思考は事実ではない	座瞑想、思考と感情の転換、痛みの前兆を探索、 慈悲の瞑想、3分間呼吸空間法	心の状態によって物事の捉え方が変わることを知る 思いやりを向けた時の反応を知る	3 分間呼吸空間法定期＆応用、座瞑想、ヨーガ、ベースライン日誌、 よかったことを１０個書き出す、日常生活でのマインドフルネス
7	自分を大切にする	座瞑想、日常活動リスト、慈悲の瞑想、3分間呼吸空間法	心を養う生活の習慣を実践する 思いやりを向けた時の反応を知る	3 分間呼吸空間法定期＆応用、座瞑想、ヨーガ、日常生活でのマインドフルネス
8	これからに活かす	ボディスキャン、ふりかえり	意図を再確認する	各自継続すると決めたこと

②マインドフルネス認知療法（個人療法）

様々ながん種や治療設定で活用できるよう、個人療法形式に修正した。治療者と患者の相互の負担軽減のために、セッションの時間を１回１時間以内に短縮し、全 8 回を柔軟な治療間隔で実施する形式とした。1 回のセッションは、集団療法から参加者同士の体験の共有の時間を削除して下記の構成とした（表２）。

表２．マインドフルネス認知療法（個人形式）の構成

①前セッションの振り返り（約 5 分） ②ホームワークの振り返り（約 10 分） ③当該セッションの中心的エクササイズ（約 15～30 分） ④エクササイズの振り返りと解説（約 10 分） ⑤ホームワーク設定（約 5 分）

マインドフルネス認知療法の原法では、体験的エクササイズから始めて、参加者の体験の共有の後に解説が行われることが多いが、個人プログラムでは、はじめに理論的根拠の解説から導入した上で体験的エクササイズを行ったり、古典的なプログラムで最初に行われるエクササイズ(レーズンエクササイズ)ではなく呼吸法などの身体的介入を媒介としたエクササイズから開始したりするなど、内容にも工夫を加えた。

(2) 実施可能性研究

慶應義塾大学病院において、同大学医学部倫理委員会の承認の下、７名のがん患者（乳がん、婦人科がん）を対象に実施可能性を検討した。全員がプログラムを完遂し、介入前後で、抑うつ・不安(Hospital Anxiety and Depression Scale: HADS)、症状負荷(Edmonton Symptom Assessment Scale: ESAS)、睡眠（アテネ睡眠尺度）で改善が認められ、十分な実行可能性が担保された。

(3) COVID-19 の影響とオンライン形式への転向

2020 年度は COVID-19 のため当該施設で臨床研究が前面凍結となった。その後も、COVID-19 の状況のため、対面・集団でのプログラムの実施が困難であった。そのため、オンライン形式でのプログラム実施の方向へ研究計画の転換をはかった。2020 年後半から 2021 年度はがん患者を含

む慢性痛患者に対するオンラインによる集団療法を提供することとした。マインドフルネス認知療法を受けて終了 6 か月後の評価が行えた慢性痛患者 24 名を対象に、マインドフルネス認知療法単独群 13 名と、リハビリテーション療法との併用群 11 名を比較したところ、併用群において単独群と比較して、治療終了 3 ヶ月後において、不安（HADS – Anxiety）と痛みの拡大視（Pain Catastrophic Scale）が有意に軽減しており、終了 6 か月時点で抑うつと不安（HADS - total）と痛みの拡大視（PCS-拡大視下位尺度と無力感下位尺度)において有意に favorable な差が認められた（Wilcoxon 符号付き順位和検定、$p<0.05$）。また、マインドフルネス認知療法に 4 セッション以上参加した者（completer 群）36 名を対象に、プログラム前後の変数の検討を行ったところ、マインドフルネスを客観的に評価する尺度である多面的内受容感覚尺度 Multidimensional Assessment of Interoceptive Awareness (Mehling WE, et al. PLoS One 2009) において、下位項目「感情への気づき」「自己制御」「身体を聴く」「信頼する」が有意に上昇していた（Wilcoxon 符号付き順位和検定、$p<0.01$）。

(4) まとめ

本研究では、マインドフルネス認知療法を集団・個人の両方の形式でプログラム化し、実施可能性を検証した。マインドフルネス認知療法は本来対面・集団療法形式であるが、個人療法形式、および、オンラインでの実施可能性を検討できたことは、今後の国内外における普及において有意義である。

COVID-19 のために当初の計画を変更したが、がん患者を含む慢性痛患者において、不安・抑うつ、痛みの拡大視、内受容感覚における改善が見られ、マインドフルネス認知療法の今後の普及や治療メカニズム解明に資すると考えられた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計99件（うち査読付論文　50件／うち国際共著　4件／うちオープンアクセス　28件）

１．著者名 Shinohara Y, Wakaizumi K, Ishikawa A, Ito M, Hoshino R, Tanaka C, Takaoka S, Kawakami M, Tsuji O, Fujisawa D, Fujiwara T, Tsuji T, Morisaki H, Kosugi S	４．巻 -
２．論文標題 Improvement in disability mediates the effect of self-efficacy on pain relief in chronic low back pain patients with exercise therapy	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Pain Research and Management	６．最初と最後の頁 4203138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1155/2022/4203138	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 藤澤大介、朴順禮、佐藤寧子	４．巻 -
２．論文標題 レジリエンスと思いやりを構築するマインドフルネス・プログラム（MaHALOプログラム）	５．発行年 2022年
３．雑誌名 ホスピス緩和ケア白書	６．最初と最後の頁 56-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 田中智里、藤澤大介	４．巻 40
２．論文標題 慢性疼痛に対する認知行動療法	５．発行年 2022年
３．雑誌名 精神科	６．最初と最後の頁 533-538
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 藤澤大介、田中智里	４．巻 25
２．論文標題 慢性痛へのマインドフルネス療法	５．発行年 2022年
３．雑誌名 臨床精神薬理	６．最初と最後の頁 543-548
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田中智里、藤澤大介	4．巻 57(8)
2．論文標題 慢性疼痛治療におけるマインドフルネス	5．発行年 2022年
3．雑誌名 .臨床整形外科	6．最初と最後の頁 1012-1016
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐渡充洋，二宮朗，朴順禮，田中智里，小杉哲平，田村法子，永岡麻貴，山田成志，藤澤大介	4．巻 64 (4)
2．論文標題 精神科医療およびメンタルヘルスにおけるマインドフルネス療法の意義と未来―日本における現状と課題を中心に―.	5．発行年 2022年
3．雑誌名 心理学評論	6．最初と最後の頁 555-578
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kitakata H, Kohno T, Kohsaka S, Fujisawa D, Nakano N, Shiraishi Y, Katsumata Y, Yuasa S, Fukuda K.	4．巻 27 (3)
2．論文標題 Prognostic Understanding and Preference for the Communication Process with Physicians in Hospitalized Heart Failure Patients	5．発行年 2021年
3．雑誌名 J Cardiac Failure	6．最初と最後の頁 318-326
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.cardfail.2020.10.009.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Abe A, Kobayashi M, Kohno T, Takeuchi M, Hashiguchi S, Mimura M, Fujisawa D	4．巻 20 (6)
2．論文標題 Patient participation and associated factors in the discussions on Do-Not-Attempt-Resuscitation and end-of-life disclosure: a retrospective chart review study	5．発行年 2021年
3．雑誌名 BMC Palliative Care	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12904-020-00698-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Sato T, Fujisawa D, Arai D, Nakachi I, Takeuchi M, Nukaga S, Kobayashi K, Ikemura S, Terai H, Yasuda H, Kawada I, Sato Y, Satomi R, Takahashi S, Haraguchi Hashiguchi M, Nakamura M, Oyamada Y, Terashima T, Sayama K, Saito F, Sakamaki F, Inoue T, Naoki K, Fukunaga K, Soejima K.	4．巻 35(5)
2．論文標題 Trends of concerns from diagnosis in patients with advanced lung cancer and their family caregivers: A 2-year longitudinal study	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Palliative Medicine	6．最初と最後の頁 943-951
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/02692163211001721	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Takita Y, Takeda Y, Fujisawa D, Kataoka M, Kawakami T, Doorenbos AZ	4．巻 8
2．論文標題 Depression, anxiety and psychological distress in patients with pulmonary hypertension: a mixed-methods study	5．発行年 2021年
3．雑誌名 BMJ Open Respiratory Research	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1136/bmjresp-2021-000876	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Tanaka C, Wakaizumi K, Kosugi S, Tanaka S, Matsudaira K, Morisaki H, Mimura M, Fujisawa D	4．巻 11(5)
2．論文標題 The association of work performance and interoceptive awareness of ‘body trusting’ in an occupational setting: a cross-sectional study	5．発行年 2021年
3．雑誌名 BMJ Open	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1136/bmjopen-2020-044303	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Tamura N, Park S, Sato Y, Sato Y, Takita Y, Ninomiya A, Sado M, Mimura M, Fujisawa D	4．巻 -
2．論文標題 Predictors and moderators of outcomes in mindfulness-based cognitive therapy intervention for early breast cancer patients	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Palliat Support Care	6．最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1017/S147895152100078X	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kitakata H, Kohno T, Kohsaka S, Fujisawa D, Nakano N, Shiraishi Y, Katsumata Y, Nagatomo Y, Yuasa S, Fukuda K	4．巻 8(6)
2．論文標題 Preferences and Attitudes toward Advance Care Planning and End-of-Life Care of Patients Hospitalized for Heart Failure	5．発行年 2021年
3．雑誌名 ESC Heart Failure	6．最初と最後の頁 5102-5111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/ehf2.13578	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kosugi T, Ninomiya A, Nagaoka M, Hashimoto Z, Sawada K, Park S, Fujisawa D, Mimura M, Sado M	4．巻 12
2．論文標題 Effectiveness of mindfulness-based cognitive therapy for improving subjective and eudaimonic well-being in healthy individuals: A randomized controlled trial	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Frontiers in Psychology	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fpsyg.2021.700916	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Arai D, Sato T, Nakachi I, Fujisawa D, Takeuchi M, Kawada I, Yasuda H, Ikemura S, Terai H, Nukaga S, Inoue T, Nakamura M, Oyamada Y, Terashima T, Sayama K, Saito F, Sakamaki F, Naoki K, Fukunaga K, Soejima K	4．巻 -
2．論文標題 Longitudinal assessment of prognostic understanding in advanced lung cancer patients and its association with their psychological distress	5．発行年 2021年
3．雑誌名 The Oncologist	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/onco.13973	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 朴順禮、藤澤大介	4．巻 63(3)
2．論文標題 患者の死と向き合う医療者への心のケア	5．発行年 2021年
3．雑誌名 保健の科学	6．最初と最後の頁 179-183
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤澤大介、田島美幸、田村法子、色本涼	4．巻 63(8)
2．論文標題 認知症家族介護者に対する認知行動療法	5．発行年 2021年
3．雑誌名 精神医学	6．最初と最後の頁 1223-1230
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤澤大介	4．巻 47(3)
2．論文標題 オンラインによるスーパービジョンのポイント	5．発行年 2021年
3．雑誌名 精神療法	6．最初と最後の頁 320-325
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤澤大介、朴順禮	4．巻 31(5)
2．論文標題 マインドフルネスとコンパッションによる燃え尽き低減プログラム：MaHALOプログラム	5．発行年 2021年
3．雑誌名 緩和ケア	6．最初と最後の頁 371-374
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤澤大介	4．巻 36s
2．論文標題 死別悲嘆と遷延性悲嘆症	5．発行年 2021年
3．雑誌名 精神科治療学	6．最初と最後の頁 109-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Hashimoto N, Takeda H, Fujii Y, Suzuki Y, Kato TA, Fujisawa D, Aoyama-Uehara A, Otsuka K, Mitsui N, Asakura S, Kusumi I.	4．巻 60
2．論文標題 Effectiveness of suicide prevention gatekeeper training for university teachers in Japan.	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Asian Journal of Psychiatry	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.ajp.2021.102661	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Takita Y, Takeda Y, Fujisawa D, Kataoka M, Kawakami T, Doorenbos AZ.	4．巻 8
2．論文標題 Depression, anxiety and psychological distress in patients with pulmonary hypertension: a mixed-methods study.	5．発行年 2021年
3．雑誌名 BMJ Open Respiratory Research	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1136/bmjresp-2021-000876	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Sato T, Fujisawa D, Arai D, Nakachi I, Takeuchi M, Nukaga S, Kobayashi K, Ikemura S, Terai H, Yasuda H, Kawada I, Sato Y, Satomi R, Takahashi S, Haraguchi Hashiguchi M, Nakamura M, Oyamada Y, Terashima T, Sayama K, Saito F, Sakamaki F, Inoue T, Naoki K, Fukunaga K, Soejima K.	4．巻 Mar 24
2．論文標題 Trends of concerns from diagnosis in patients with advanced lung cancer and their family caregivers: A 2-year longitudinal study.	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Palliative Medicine	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/02692163211001721	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Maeda I, Inoue S, Uemura K, Tanimukai H, Hatano Y, Yokomichi N, Amano K, Tagami K, Yoshiuchi K, Ogawa A, Iwase S; Phase-R Delirium Study Group (including Fujisawa D)	4．巻 Feb 11
2．論文標題 Low-Dose Trazodone for Delirium in Patients with Cancer Who Received Specialist Palliative Care: A Multicenter Prospective Study. . 2021 Feb 11	5．発行年 2021年
3．雑誌名 J Palliat Med	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1089/jpm.2020.0610	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Abe A, Kobayashi M, Kohno T, Takeuchi M, Hashiguchi S, Mimura M, Fujisawa D.	4．巻 20 (1)
2．論文標題 Patient participation and associated factors in the discussions on Do-Not-Attempt-Resuscitation and end-of-life disclosure: a retrospective chart review study.	5．発行年 2021年
3．雑誌名 BMC Palliative Care	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12904-020-00698-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kitakata H, Kohno T, Kohsaka S, Fujisawa D, Nakano N, Shiraishi Y, Katsumata Y, Yuasa S, Fukuda K.	4．巻 27(3)
2．論文標題 Prognostic Understanding and Preference for the Communication Process with Physicians in Hospitalized Heart Failure Patients.	5．発行年 2021年
3．雑誌名 J Cardiac Failure	6．最初と最後の頁 318-326
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.cardfail.2020.10.009	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Shikimoto R, Tamura N, Irie S, Iwashita S, Mimura M, Fujisawa D.	4．巻 21(1)
2．論文標題 Group cognitive behavioral therapy for family caregivers of people with dementia: A single-arm pilot study.	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Psychogeriatrics	6．最初と最後の頁 134-136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/psyg.12643	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Fujisawa,D, Umemura S, Okizaki A, Satomi E, Yamaguchi T, Miyaji T, Mashiko T, Kobayashi N, Kinoshita H, Mori M, Morita T, Uchitomi Y, Goto K, Ohe Y, Matsumoto Y.	4．巻 10(11)
2．論文標題 A nurse-led, screening-triggered early specialized palliative care intervention program for patients with advanced lung cancer: study protocol for a multicenter randomized controlled trial.	5．発行年 2020年
3．雑誌名 BMJ Open	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1136/bmjopen-2020-037759	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kosugi K, Nishiguchi Y, Miura T, Fujisawa D, Kawaguchi T, Izumi K, Takehana J, Uehara Y, Usui Y, Terada T, Inoue Y, Natsume M, Yajima MY, Watanabe YS, Okizaki A, Matsushima E, Matsumoto Y.	4．巻 61(5)
2．論文標題 Association between loneliness and the use of online peer support groups among cancer patients with minor children: a cross-sectional web-based study.	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Journal of Pain and Symptom Management	6．最初と最後の頁 955-962
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.jpainsymman.2020.09.035	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Fujisawa D, Umezawa S, Fujimori M, Miyashita M.	4．巻 50(11)
2．論文標題 Prevalence and associated factors of perceived cancer-related stigma in Japanese cancer survivors.	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Japanese Journal of Clinical Oncology	6．最初と最後の頁 1325-1329
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1093/jjco/hyaa135	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Takeuchi E, Fujisawa D, Miyawaki R, Yako-Suketomo H, Oka K, Mimura M, Takahashi M.	4．巻 19(1)
2．論文標題 Cross-cultural validation of the Cancer Stigma Scale in the Japanese general population.	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Palliative and Supportive Care	6．最初と最後の頁 75-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1017/S1478951520000486	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Aoyama M, Sakaguchi Y, Fujisawa D, Morita T, Ogawa A, Kizawa Y, Tsuneto S, Shima Y, Miyashita M.	4．巻 275
2．論文標題 Insomnia and changes in alcohol consumption: Relation between possible complicated grief and depression among bereaved family caregivers.	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Journal of Affective Disorders	6．最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.jad.2020.06.023	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Hashimoto N, Takahashi K, Fujisawa D, Aoyama K, Nakagawa A, Okamura N, Toyomaki A, Oka M, Takanobu K, Okubo R, Narita H, Kitagawa K, Udo N, Maeda T, Watanabe S, Oyanagi Y, Miyazaki A, Ito K, Kusumi I.	4．巻 54
2．論文標題 A pilot validation study of the Japanese translation of the Positive and Negative Syndrome Scale (PANSS).	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Asian Journal of Psychiatry	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.ajp.2020.102210	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Tamura N, Park S, Sato Y, Takita Y, Morishita J, Ninomiya A, Kosugi T, Sado M, Mimura M, Fujisawa D	4．巻 2(2)
2．論文標題 Study protocol for evaluating the efficacy of Mindfulness for health professionals building resilience and compassion program (MaHALO program): a randomized, waiting-list controlled trial.	5．発行年 2020年
3．雑誌名 The Journal of Psychosocial Oncology Research and Practice	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1097/OR9.0000000000000022	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Park S, Sato Y, Takita Y, Tamura N, Ninomiya A, Kosugi T, Sado M, Nakagawa A, Takahashi M, Hayashida T, Fujisawa D.	4．巻 60(2)
2．論文標題 Mindfulness-based Cognitive Therapy for Psychological Distress, Fear of Cancer Recurrence, Fatigue, Spiritual Wellbeing and Quality of Life in Patients with Breast Cancer; a Randomized Control Trial	5．発行年 2020年
3．雑誌名 J Pain Symptom Management	6．最初と最後の頁 381-389
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.jpainsymman.2020.02.017	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Sado M, Kosugi T, Ninomiya A, Nagaoka M, Park S, Fujisawa D, Shirahase J, Mimura M.	4．巻 9(5)
2．論文標題 Effectiveness and cost effectiveness of Mindfulness-Based Cognitive Therapy for improving subjective well-being among healthy individuals: study protocol for a randomised controlled trial.	5．発行年 2020年
3．雑誌名 JMIR Res Protocol	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2196/15892	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Matsuda Y, Tanimukai H, Inoue S, Inada S, Sugano K, Hasuo H, Yoshimura M, Wada S, Dotani C, Adachi H, Okamoto Y, Takeuchi M, Fujisawa D, Kako J, Sasaki C, Kishi Y, Akizuki N, Inagaki M, Yosuke Uchitomi, Matsushima E, Okuyama T.	4．巻 50(5)
2．論文標題 JPOS/ JASCC clinical guidelines for delirium in adult cancer patients: a summary of recommendation statements.	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Japanese Journal of Clinical Oncology	6．最初と最後の頁 586-593
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1093/jjco/hyaa003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kubo H, Urata H, Sakai M, Nonaka S, Saito K, Taten M, Kobara K, Hashimoto N, Fujisawa D, Suzuki Y, Otsuka K, Kamimae H, Muto Y, Usami T, Honda Y, Kishimoto J, Kuroki T, Kanba S, Kato TA.	4．巻 6(1)
2．論文標題 Development of 5-day hikikomori intervention program for family members: A single-arm pilot trial.	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Heliyon	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.heliyon.2019.e03011	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Ninomiya A, Sado M, Park S, Fujisawa D, Kosugi T, Nakagawa A, Shirahase J, Mimura M.	4．巻 74(2)
2．論文標題 The effectiveness of mindfulness-based cognitive therapy in patients with anxiety disorders in secondary care settings: a randomized controlled trial.	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Psychiatry Clin Neurosciences	6．最初と最後の頁 132-139
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/pcn.12960	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 朴順禮、藤澤大介.	4．巻 63(3)
2．論文標題 患者の死と向き合う医療者への心のケア.	5．発行年 2021年
3．雑誌名 保健の科学	6．最初と最後の頁 179-183
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤澤大介	4．巻 第69巻増刊号
2．論文標題 慢性痛に対するマインドフルネス療法：概略とミニ演習	5．発行年 2020年
3．雑誌名 麻酔	6．最初と最後の頁 S185-S190
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤澤大介	4．巻 48(10)
2．論文標題 認知症家族介護者に対する認知行動療法－STARTプログラム	5．発行年 2020年
3．雑誌名 総合リハビリテーション	6．最初と最後の頁 939-944
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤澤大介、阿部晃子	4．巻 増刊22(11)
2．論文標題 進行がん患者の症状緩和・終末期ケア：気持ちのつらさ（不安・抑うつ）	5．発行年 2020年
3．雑誌名 レジデントノート	6．最初と最後の頁 172-179
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤澤大介	4．巻 20(4)
2．論文標題 身体疾患の患者さんとどう語るか？　がん患者さんを例に	5．発行年 2020年
3．雑誌名 臨床心理学	6．最初と最後の頁 439-444
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 色本涼、田村法子、田島美幸、石川博康、原祐子、重枝裕子、吉崎崇仁、船木圭、田渕肇、三村将、藤澤大介	4．巻 31(4)
2．論文標題 認知症家族介護者に対するの集団認知行動療法：日本版START（家族のための戦略）プログラム	5．発行年 2020年
3．雑誌名 老年精神医学雑誌	6．最初と最後の頁 346-353
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊藤怜子、清水恵、佐藤一樹、加藤雅志、藤澤大介、内藤明美、森田達也、宮下光令	4．巻 15 (2)
2．論文標題 日本の一般市民を対象に受療行動調査の質問項目によって測定したQOLの性質とその関連要因	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Palliative Care Research	6．最初と最後の頁 135-146
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 藤澤大介	4．巻 -
2．論文標題 死別後悲嘆・複雑性悲嘆に伴う生産性低下（労働損益）	5．発行年 2020年
3．雑誌名 遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する研究（J-HOPE4）報告書	6．最初と最後の頁 180-183
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 藤澤大介	4．巻 35(3)
2．論文標題 医療倫理と医療安全	5．発行年 2020年
3．雑誌名 精神科治療学	6．最初と最後の頁 243-245
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田中智里、藤澤大介	4．巻 41(1)
2．論文標題 マインドフルネスによる慢性疼痛への心理的アプローチ	5．発行年 2020年
3．雑誌名 ペインクリニック	6．最初と最後の頁 115-124
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤澤大介、巣黒慎太郎、安藤美華代、庵地雄太、藤井彩、五十嵐友里	4．巻 13(1)
2．論文標題 慢性身体疾患の一次・二次・三次予防にいかす認知行動療法	5．発行年 2020年
3．雑誌名 認知療法研究	6．最初と最後の頁 9-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Tamura N, Park S, Sato Y, Takita Y, Morishita J, Ninomiya A, Kosugi T, Sado M, Mimura M, Fujisawa D*.	4．巻 -
2．論文標題 Study protocol for evaluating the efficacy of Mindfulness for health professionals building resilience and compassion program (MaHALO program): a randomized, waiting-list controlled trial	5．発行年 2020年
3．雑誌名 The Journal of Psychosocial Oncology Research and Practice	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Park S, Sato Y, Takita Y, Tamura N, Ninomiya A, Kosugi T, Sado M, Nakagawa A, Takahashi M, Hayashida T, Fujisawa D	4．巻 -
2．論文標題 Mindfulness-Based Cognitive Therapy for Psychological Distress, Fear of Cancer Recurrence, Fatigue, Spiritual Well-Being, and Quality of Life in Patients With Breast Cancer?A Randomized Controlled Trial	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Journal of Pain and Symptom Management	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.jpainsymman.2020.02.017	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Sado M, Kosugi T, Ninomiya A, Nagaoka M, Park S, Fujisawa D, Shirahase J, Mimura M.	4．巻 -
2．論文標題 Effectiveness and cost effectiveness of Mindfulness-Based Cognitive Therapy for improving subjective well-being among healthy individuals: study protocol for a randomised controlled trial.	5．発行年 2020年
3．雑誌名 JMIR Res Protoc	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2196/15892	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Matsuda Y, Tanimukai H, Inoue S, Inada S, Sugano K, Hasuo H, Yoshimura M, Wada S, Dotani C, Adachi H, Okamoto Y, Takeuchi M, Fujisawa D, Kako J, Sasaki C, Kishi Y, Akizuki N, Inagaki M, Yosuke Uchitomi, Matsushima E, Okuyama T.	4．巻 -
2．論文標題 JPOS/ JASCC clinical guidelines for delirium in adult cancer patients: a summary of recommendation statements.	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Japanese Journal of Clinical Oncology	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1093/jjco/hyaa003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kubo H, Urata H, Sakai M, Nonaka S, Saito K, Taten M, Kobara K, Hashimoto N, Fujisawa D, Suzuki Y, Otsuka K, Kamimae H, Muto Y, Usami T, Honda Y, Kishimoto J, Kuroki T, Kanba S, Kato TA.	4．巻 6(1)
2．論文標題 Development of 5-day hikikomori intervention program for family members: A single-arm pilot trial.	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Heliyon	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.heliyon.2019.e03011	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Ninomiya A, Sado M, Park S, Fujisawa D, Kosugi T, Nakagawa A, Shirahase J, Mimura M.	4．巻 74(2)
2．論文標題 The effectiveness of mindfulness-based cognitive therapy in patients with anxiety disorders in secondary care settings: a randomized controlled trial.	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Psychiatry Clin Neurosci	6．最初と最後の頁 132-139
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤澤大介	4．巻 -
2．論文標題 身体疾患の患者さんとどう語るか？　がん患者さんを例に	5．発行年 2020年
3．雑誌名 臨床心理学	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤澤大介	4．巻 -
2．論文標題 死別後悲嘆・複雑性悲嘆に伴う生産性低下（労働損益）	5．発行年 2020年
3．雑誌名 （J-HOPE4）報告書	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤澤大介、山本玲美子、田村法子	4．巻 -
2．論文標題 気持ちのつらさの評価	5．発行年 2020年
3．雑誌名 緩和ケアのためのアセスメントツール集	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 横山貴和子，山市大輔，藤澤大介	4．巻 -
2．論文標題 小児の他傷・自傷に出会ったら	5．発行年 2020年
3．雑誌名 小児内科	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤澤大介	4．巻 35(3)
2．論文標題 医療倫理と医療安全	5．発行年 2020年
3．雑誌名 精神科治療学	6．最初と最後の頁 243-245
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田中智里、藤澤大介	4．巻 41(1)
2．論文標題 マインドフルネスによる慢性疼痛への心理的アプローチ	5．発行年 2020年
3．雑誌名 ペインクリニック	6．最初と最後の頁 115-124
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤澤大介、巣黒慎太郎、安藤美華代、庵地雄太、藤井彩、五十嵐友里	4．巻 13(1)
2．論文標題 慢性身体疾患の一次・二次・三次予防にいかす認知行動療法	5．発行年 2020年
3．雑誌名 認知療法研究	6．最初と最後の頁 9-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤澤大介	4．巻 34(8)
2．論文標題 治療プログラムの実施・完遂のみに躍起になっていませんか？　―精神療法の中断・脱落について考えること	5．発行年 2019年
3．雑誌名 精神科治療学	6．最初と最後の頁 869-874
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤澤大介	4．巻 15(3)
2．論文標題 腫瘍内科医に必要な緩和医療のポイント－がん患者の「こころの痛み」に対応するために	5．発行年 2019年
3．雑誌名 臨床腫瘍プラクティス	6．最初と最後の頁 187-192
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤澤大介、藤澤敦子	4．巻 45(4)
2．論文標題 力動的精神医学と認知行動療法	5．発行年 2019年
3．雑誌名 精神療法	6．最初と最後の頁 470-474
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 阿部晃子、藤澤大介	4．巻 29増刊号
2．論文標題 マインドフルネスの緩和ケアにおける位置づけ	5．発行年 2019年
3．雑誌名 緩和ケア	6．最初と最後の頁 132-135
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 色本涼、田村法子、藤澤大介	4．巻 4964
2．論文標題 診察室ですべき認知症の人と家族への非薬物療法	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日本医事新報	6．最初と最後の頁 24-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Ishikawa S, Chen J, Fujisawa D, Tanaka T	4．巻 -
2．論文標題 The Development, Progress, and Current Status of Cognitive Behaviour Therapy in Japan	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Australian Psychologist	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/ap.12450	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Matsuda Y, Fujisawa D, et al.	4．巻 9 (1)
2．論文標題 Reversibility of delirium in Ill-hospitalized cancer patients: Does underlying etiology matter?	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Cancer Med	6．最初と最後の頁 19-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/cam4.2669	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Fujisawa Daisuke、Temel Jennifer S.、Greer Joseph A.、El-Jawahri Areej、Traeger Lara、Jacobs Jamie M.、Cutrono Stacy、Pirl William F.	4．巻 -
2．論文標題 Actigraphy as an assessment of performance status in patients with advanced lung cancer.[Epub ahead of print]	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Palliative and Supportive Care	6．最初と最後の頁 1～5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1017/S1478951518001074	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Okuyama Toru、Yoshiuchi Kazuhiro、Ogawa Asao、Iwase Satoru、Yokomichi Naosuke、Sakashita Akihiro、Tagami Keita、Uemura Keiichi、Nakahara Rika、Akechi Tatsuo、on behalf of Phase‐R Delirium Study Group	4．巻 -
2．論文標題 Current Pharmacotherapy Does Not Improve Severity of Hypoactive Delirium in Patients with Advanced Cancer: Pharmacological Audit Study of Safety and Efficacy in Real World (Phase‐R).[Epub ahead of print]	5．発行年 2019年
3．雑誌名 The Oncologist	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1634/theoncologist.2018-0242	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Takeuchi Emi、Shimizu Mariko、Miyata Kayoko、Shimizu Rieko、Matsunaga Naoko、Moroi Natsuko、Fujisawa Daisuke、Mimura Masaru、Kato Masashi	4．巻 8
2．論文標題 A Content Analysis of Multidimensional Support Needs Regarding Fertility Among Cancer Patients: How Can Nonphysician Health Care Providers Support?[Epub ahead of print]	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Journal of Adolescent and Young Adult Oncology	6．最初と最後の頁 205～211
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1089/jayao.2018.0085	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kubo Hiroaki、Urata Hiromi、Katsuki Ryoko、Hirashima Miyako、Ueno Shion、Suzuki Yuriko、Fujisawa Daisuke、Hashimoto Naoki、Kobara Keiji、Cho Tetsuji、Mitsui Toshiko、Kanba Shigenobu、Otsuka Kotaro、Kato Takahiro A.	4．巻 13
2．論文標題 Development of MHFA-based 2-h educational program for early intervention in depression among office workers: A single-arm pilot trial.	5．発行年 2018年
3．雑誌名 PLOS ONE	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1371/journal.pone.0208114	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Sado Mitsuhiro、Park Sunre、Ninomiya Akira、Sato Yasuko、Fujisawa Daisuke、Shirahase Joichiro、Mimura Masaru	4．巻 11
2．論文標題 Feasibility study of mindfulness-based cognitive therapy for anxiety disorders in a Japanese setting	5．発行年 2018年
3．雑誌名 BMC Research Notes	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s13104-018-3744-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Ogawa Asao、Okumura Yasuyuki、Fujisawa Daisuke、Takei Hiroyuki、Sasaki Chiyuki、Hirai Kei、Kanno Yusuke、Higa Kensuke、Ichida Yasuhiko、Sekimoto Asuko、Asanuma Chie	4．巻 27
2．論文標題 Quality of care in hospitalized cancer patients before and after implementation of a systematic prevention program for delirium: the DELTA exploratory trial.[Epub ahead of print]	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Supportive Care in Cancer	6．最初と最後の頁 557～565
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s00520-018-4341-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Sato T, Soejima K, Fujisawa D, Takeuchi M, Arai D, Nakachi I, Kaoki K, Kawada I, Yasuda H, Ishioka K, Nukaga S, Kobayashi K, Masaki K, Inoue T, Hikima K, Nakamura M, Ohgino K, Oyamada Y, Funatsu Y, Terashima T, Miyao N, Sayama K, Saito F, Sakamaki F, Betsuyaku T	4．巻 23
2．論文標題 Prognostic Understanding at Diagnosis and Associated Factors in Patients with Advanced Lung Cancer and Their Caregivers	5．発行年 2018年
3．雑誌名 The Oncologist	6．最初と最後の頁 1218～1229
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1634/theoncologist.2017-0329	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Takeuchi Emi、Kato Masashi、Miyata Kayoko、Suzuki Nao、Shimizu Chikako、Okada Hiroshi、Matsunaga Naoko、Shimizu Mariko、Moroi Natsuko、Fujisawa Daisuke、Mimura Masaru、Miyoshi Yoko	4．巻 26
2．論文標題 The effects of an educational program for non-physician health care providers regarding fertility preservation	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Supportive Care in Cancer	6．最初と最後の頁 3447～3452
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s00520-018-4217-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Aoyama M, Sakaguchi Y, Morita T, Asao O, Fujisawa D, Kizawa Y, Tuneto S, Shima Y, Miyashita M	4．巻 -
2．論文標題 Factors associated with possible complicated grief and major depressive disorder	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Psycho-Oncology	6．最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/pon.46102017	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Park Sunre、Sado Mitsuhiro、Fujisawa Daisuke、Sato Yasuko、Takeuchi Mari、Ninomiya Akira、Takahashi Maiko、Yoshimura Kimio、Jinno Hiromitsu、Takeda Yuko	4．巻 48
2．論文標題 Mindfulness-based cognitive therapy for Japanese breast cancer patients?a feasibility study	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Japanese Journal of Clinical Oncology	6．最初と最後の頁 68～74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1093/jjco/hyx156	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Ogawa Asao、Kondo Kyoko、Takei Hiroyuki、Fujisawa Daisuke、Ohe Yuichiro、Akechi Tatsuo	4．巻 23
2．論文標題 Decision‐Making Capacity for Chemotherapy and Associated Factors in Newly Diagnosed Patients with Lung Cancer	5．発行年 2018年
3．雑誌名 The Oncologist	6．最初と最後の頁 489～495
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1634/theoncologist.2017-0187	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 石川博康、田島美幸、岡田佳詠、藤澤大介、田村法子、佐藤洋子	4．巻 75
2．論文標題 認知症家族介護者の認知行動療法：START（家族のための戦略）プログラム：実践編	5．発行年 2019年
3．雑誌名 保健師ジャーナル	6．最初と最後の頁 332-336
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤澤大介	4．巻 3
2．論文標題 産婦人科医が知っておきたい女性と関連が深い疾患：うつ病や周辺疾患の診かたとスクリーニング	5．発行年 2019年
3．雑誌名 OG Scope	6．最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤澤大介	4．巻 30
2．論文標題 老年期における不安－身体疾患を有する方の不安への対応	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日本老年精神医学会雑誌	6．最初と最後の頁 373-379
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤澤大介、色本涼、田村法子、石川博康、田島美幸	4．巻 75
2．論文標題 認知症家族介護者の認知行動療法：START（家族のための戦略）プログラム：基礎編	5．発行年 2019年
3．雑誌名 保健師ジャーナル	6．最初と最後の頁 148-152
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田島美幸、石川博康、吉原美沙紀、原祐子、藤里紘子、岡田佳詠、藤澤大介	4．巻 12
2．論文標題 超高齢化社会における認知療法・認知行動療法による寄与の可能性：認知症の家族介護者のメンタルヘルスと認知療法	5．発行年 2019年
3．雑誌名 認知行動療法．認知療法研究	6．最初と最後の頁 31-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田島美幸、石川博康、原祐子、藤澤大介	4．巻 38
2．論文標題 ポジティブ精神医学－認知症の家族介護者へのアプローチ	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日本精神科病院協会雑誌	6．最初と最後の頁 134-138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 澤田恭助、藤澤大介	4．巻 34
2．論文標題 うつ病の診断と治療を深める－その時代変遷を踏まえて－うつ病治療としてのマインドフルネス（印刷中）	5．発行年 2019年
3．雑誌名 精神科治療学	6．最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 河野佐代子、木村範子、大和田陽子、藤澤大介	4．巻 61
2．論文標題 服薬指導上知っておきたい認知機能障害に配慮したコミュニケーション	5．発行年 2019年
3．雑誌名 月間薬事	6．最初と最後の頁 49-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 神山咲樹、藤澤大介	4．巻 45
2．論文標題 公認心理士のための簡易型認知行動療法入門－保健医療分野での活用．精神療法	5．発行年 2019年
3．雑誌名 精神療法	6．最初と最後の頁 40-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤澤大介、八田耕太郎	4．巻 4940
2．論文標題 日常外来で効率よくマインドフルな状態に導けるような指導手順は?　一般外来でのマインドフルネスの導入	5．発行年 2018年
3．雑誌名 日本医事新報	6．最初と最後の頁 56-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田島美幸、石川博康、吉岡直美、原祐子、佐藤洋子、吉原美沙紀、藤里紘子、重枝裕子、岡田佳詠、藤澤大介	4．巻 74
2．論文標題 地域における認知症の家族介護者向け認知行動療法プログラムに関する取り組み	5．発行年 2018年
3．雑誌名 保健師ジャーナル	6．最初と最後の頁 1046-1051
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤澤大介	4．巻 55
2．論文標題 内科医が支えるエンド・オブ・ライフ：スピリチュアルな苦痛	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Medicina	6．最初と最後の頁 1762-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 清水佐智子、高橋都、藤澤大介、藤森麻衣子、宮下光令	4．巻 13
2．論文標題 がんサバイバーの就業状況、 収入の変化に関する経験の実態とQOL・心の健康との関連	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Palliative Care Research	6．最初と最後の頁 209-211
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 藤澤大介	4．巻 44
2．論文標題 短時間の外来診療に認知行動療法のエッセンスを活かす	5．発行年 2018年
3．雑誌名 精神療法	6．最初と最後の頁 475-479
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田村法子、藤澤大介	4．巻 132
2．論文標題 栄養指導に活かす行動医学の視点-患者のこころとからだを支えるために(Part 2)行動変容に関する代表的理論・概念・技法　認知再構成	5．発行年 2018年
3．雑誌名 臨床栄養	6．最初と最後の頁 741-746
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田村法子、藤澤大介	4．巻 142
2．論文標題 認知症トータルケア：心理検査と行動評価尺度：認知症の行動・心理症状の評価：CMAI	5．発行年 2018年
3．雑誌名 日本医師会雑誌	6．最初と最後の頁 S183-S184
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤澤大介	4．巻 4
2．論文標題 マインドフルネスを医療現場にいかす：マインドフルネスの背景	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Cancer Board Square	6．最初と最後の頁 16-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤澤大介	4．巻 18
2．論文標題 【もっと知りたいあなたのための認知行動療法ガイド】がん領域における認知行動療法	5．発行年 2018年
3．雑誌名 臨床心理学	6．最初と最後の頁 52-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計48件（うち招待講演　10件／うち国際学会　9件）

1．発表者名 Tsuchiya M, Fujii S, Taniguchi A, Fujisawa D, Takata T, Takahashi M, Okada A.
2．発表標題 Acceptability testing of the First-job Seeking Support Guide among multiple stakeholders
3．学会等名 The 4th Global Adolescent and Young Adult Cancer Congress（国際学会）
4．発表年 2020年

１．発表者名 田中智里、二宮朗、田村法子、若泉謙太、小杉志都子、朴順禮、佐渡充洋、藤澤大介
２．発表標題 COVID-19流行による急性ストレスに対するマインドフルネスの継続効果：マインドフルネス心理療法経験者を対象とした横断的調査
３．学会等名 日本マインドフルネス学会第7回大会
４．発表年 2020年～2021年

１．発表者名 江口洋子、河野佐代子、中野直美、竜崎俊宣、林田健太郎、藤澤大介、田中謙二、三村將
２．発表標題 経カテーテル的大動脈弁植込み術適応の高齢患者における医療同意能力の評価と支援
３．学会等名 第24回日本心不全学会学術集会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 戸蒔祐子、宇野俊介、藤澤大介、矢永由里子、西松直美、小谷宙、上田裕美、上蓑義典、藤原宏、長谷川直樹
２．発表標題 HIV診断後、メンタルヘルスの不調により、受診・治療中断を繰り返した患者への服薬支援
３．学会等名 第34回日本エイズ学会
４．発表年 2020年

１．発表者名 藤澤大介
２．発表標題 がん診療におけるマインドフルネスやメディテーション（瞑想）の活用
３．学会等名 緩和・支持・心のケア合同学術大会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 藤澤大介、朴順禮
２．発表標題 ．マインドフルネスとコンパッションに基づく医療従事者のストレス・燃え尽き低減プログラムの効果:ランダム化比較試験（シンポジウム「緩和ケアを専門とする医療者の人材育成とそのための支援～緩和ケアの未来をつくる礎に～」）
３．学会等名 緩和・支持・心のケア合同学術大会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 藤澤大介
２．発表標題 Guideline in progress - がん患者の気持ちのつらさガイドライン
３．学会等名 緩和・支持・心のケア合同学術大会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 藤澤大介、朴順禮、佐藤寧子、瀧田結香、田村法子、森下純子、佐渡充洋、二宮朗、小杉哲平、石井亮太、三村 將
２．発表標題 マインドフルネスとコンパッションに基づく医療従事者のストレス・燃え尽き低減プログラムの効果:ランダム化比較試験
３．学会等名 緩和・支持・心のケア合同学術大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 朴順禮、藤澤大介、佐藤寧子、瀧田結香、田村法子、森下純子、佐渡充洋、二宮朗、小杉哲平、三村將
２．発表標題 コンパッション(Compassion)とは何か?　マインドフルネスプログラムを体験した医療従事者が思うコンパッション
３．学会等名 緩和・支持・心のケア合同学術大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 阿部晃子、小林雅斗、河野隆志、竹内麻理、江口洋子、河野佐代子、長谷川奉延、橋口さおり、三村將、藤澤大介
２．発表標題 終末期と心肺蘇生(CPR)に関する話し合いへの患者本人の参加率と関連要因
３．学会等名 緩和・支持・心のケア合同学術大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 沖﨑歩、松本禎久、梅村茂樹、小林直子、藤澤大介、森田達也、山口拓洋、森雅紀、木下寛也、内富庸介
２．発表標題 Trial in progress - 進行がん患者に対するスクリーニングを組み合わせた看護師主導による治療早期からの専門的緩和ケア介入プログラムの臨床的有用性を検証する無作為化比較試験
３．学会等名 緩和・支持・心のケア合同学術大会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 寺田立人、小杉和博、西口洋平、三浦智史、藤澤大介、松本禎久、上原優子、川口崇、泉夏代、竹鼻淳
２．発表標題 がん患者が18歳未満の子どもに自身のがんを伝える背景因子の検討
３．学会等名 緩和・支持・心のケア合同学術大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 木村宏之、岸辰一、尾崎紀夫、亀井秀弥、小倉靖弘、川崎弘詔、西村勝治、杉田尚子、野間俊一、大橋綾子、光安博志、成田尚、田中輝明、藤澤大介、松本洋輔、岡田剛史
２．発表標題 生体肝移植ドナーに併存する精神疾患
３．学会等名 第38回日本肝移植学会学術集会
４．発表年 2020年

１．発表者名 井上裕次郎，小杉和博，西口洋平，三浦智史，藤澤大介，上原優子，川口崇，泉夏代，竹鼻淳，松本禎久
２．発表標題 18歳未満の子どもをもつがん患者を対象とした、子どもに関する相談相手の現状と追加の相談相手の希望に関するウェブ調査
３．学会等名 日本緩和医療学会第2回関東・甲信越支部学術大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 竹内麻理、藤澤大介、角甲純、谷向仁、松田能宣、井上真一郎、奥山徹、稲垣正俊、内富庸介
２．発表標題 JPOS-JASCCがん患者におけるせん妄ガイドラインCQ8：がん患者の終末期のせん妄に対して、せん妄症状の軽減を目的として推奨されるアプローチにはどのようなものがあるか？
３．学会等名 第32回日本総合病院精神医学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 角甲純、藤澤大介、竹内麻里、谷向仁、松田能宣、井上真一郎、奥山徹、稲垣正俊、内富庸介
２．発表標題 JPOS-JASCCがん患者におけるせん妄ガイドラインCQ9：せん妄を有するがん患者に対して、家族が望むケアにはどのようなものがあるか？
３．学会等名 第32回日本総合病院精神医学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 田村法子、藤澤大介、朴順禮、佐藤寧子、瀧田結香、佐渡充洋、佐藤泰憲、三村將
２．発表標題 乳がん患者に対するマインドフルネス認知療法の治療効果予測因子
３．学会等名 日本サイコオンコロジー学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 田中慎太郎，田中智里，小杉志都子,三村將，藤澤大介
２．発表標題 一般企業におけるPresenteeismと肥満・心理的ストレスの関連
３．学会等名 日本認知療法・認知行動療法学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 田中智里、田中慎太郎、安永匡志、大村真悠、小杉志都子、三村將、藤澤大介
２．発表標題 慢性痛への学際的治療としてのマインドフルネス認知療法の有用性に関する前後比較試験
３．学会等名 日本認知療法・認知行動療法学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 中島美鈴、松永美希、大谷真、久我弘典、藤澤大介
２．発表標題 集団認知行動療法治療者評価尺度のADHD症例における妥当性・信頼性の検討
３．学会等名 日本認知療法・認知行動療法学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 榎戸正則，近藤享子，武井宣之，藤澤大介，小川朝生
２．発表標題 新たに肺がんと診断された高齢癌患者の化学療法に関する治療同意能力及びその関連因子の評価
３．学会等名 日本緩和医療学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 角甲純、藤澤大介、竹内麻里、谷向仁、松田能宣、井上真一郎、奥山徹、稲垣正俊、内富庸介
２．発表標題 JPOS-JASCCがん患者におけるせん妄ガイドラインCQ9：せん妄を有するがん患者に対して、家族が望むケアにはどのようなものがあるか？
３．学会等名 日本緩和医療学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 竹内麻理、藤澤大介、角甲純、谷向仁、松田能宣、井上真一郎、奥山徹、稲垣正俊、内富庸介
２．発表標題 JPOS-JASCCがん患者におけるせん妄ガイドラインCQ8：がん患者の終末期のせん妄に対して、せん妄症状の軽減を目的として推奨されるアプローチにはどのようなものがあるか？
３．学会等名 日本緩和医療学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Daisuke Fujisawa, Sunre Park, Yasuko Sato, Mitsuhiro Sado, Yuka Takita, Noriko Tamura, Mari Takeuchi, Atsuo Nakagawa, Akira Ninomiya, Teppei Kosugi
２．発表標題 Mindfulness-based cognitive therapy improved depression, anxiety, fear of cancer recurrence, fatigue, and QoL in patients with breast cancer - a randomized control trial.
３．学会等名 The 20th World Congress of Psycho-Oncology（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Emi Takeuchi, Rina Miyawaki, Daisuke Fujisawa, Hiroko Suketomo, Koichiro Oka, Miyako Takahashi
２．発表標題 alidation of the Cancer Stigma Scale among Japanese general population.
３．学会等名 The 20th World Congress of Psycho-Oncology（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kotone Hata, Maiko Fujimori, Daisuke Fujisawa, Shin-ichi Suzuki, Mitsunori Miyashita
２．発表標題 Quality of Life and Psychological Distress in Cancer Survivors with a Minor Child.
３．学会等名 The 20th World Congress of Psycho-Oncology（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Miyako Tsuchiya, Daisuke Fujisawa, Yoshinori Takata, Akiko Taniguchi, Miyako Takahashi
２．発表標題 Psychological Burden, and Need for Understanding at Workplaces as Factors of Disclosing Cancer Status during First-time Job Seeking.
３．学会等名 The 20th World Congress of Psycho-Oncology（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Shikimoto R, Fujisawa D, Tamura N, Hirano S, Kanba R, Shimomura Y, Irie S, Iwashita S, Mimura M
２．発表標題 Group cognitive behavior therapy program for family caregivers of people with dementia: a single arm pilot study
３．学会等名 2nd Innovations and State of the Art In Dementia Research（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Ninomiya A, Sado M, Fujisawa D, et al
２．発表標題 Effectiveness of supplementary mindfulness-based cognitive therapy for non-remitted patients with anxiety disorders: a randomized controlled trial.
３．学会等名 International Conference on Mindfulness（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Matsumoto Y, Fujisawa D, Morita T, Yamaguchi T, Shigeki U, Miyaji T, Mashiko T, Kobayashi N, Okizaki A, Mori M, Kinoshita H, Uchitomi Y
２．発表標題 Nurse-led, screening-triggered early specialized palliative care intervention program for advanced lung cancer patients：randomized controlled trial.
３．学会等名 Palliative Care Clinical Studies Collaborative 9th Annual Research Forum（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Fujisawa D
２．発表標題 Development Levels of Psycho-Oncology Services - A Report from the International Federation of Psycho-oncology Societies
３．学会等名 Annual meeting of Taiwan Psycho-Oncology Society（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 瀧田結香、片岡雅晴、川上崇史、藤澤大介
２．発表標題 高血圧症患者におけるうつ・不安状態とその影響因子について
３．学会等名 第83回日本循環器学会学術集会
４．発表年 2019年

１．発表者名 土屋雅子，藤澤大介，鷹田佳典，谷口明子，高橋都
２．発表標題 小児期，AYA期がん経験者の初めての就職活動における，病気開示に関する相談支援行動と意思決定支援へのニーズ
３．学会等名 第1回AYAがんの医療と支援のあり方研究会学術集会
４．発表年 2019年

１．発表者名 鷹田佳典、谷口明子、藤澤大介、岡田晃、高橋都、土屋雅子
２．発表標題 初めての就職活動を行う小児期・AYA期発症がん経験者の就職支援に関わる担当者が、病気開示の意思決定支援ガイドに求める項目
３．学会等名 第1回AYAがんの医療と支援のあり方研究会学術集会
４．発表年 2019年

１．発表者名 鷹田佳典、谷口明子、藤澤大介、岡田晃、高橋都、土屋雅子
２．発表標題 就職支援担当者の考える、初めての就職活動を行う小児期・AYA期発症がん経験者の病気開示・非開示のメリット・デメリット
３．学会等名 第1回AYAがんの医療と支援のあり方研究会学術集会
４．発表年 2019年

１．発表者名 田中智里、藤澤大介、大村真悠、田中慎太郎、小杉志都子、三村將
２．発表標題 マインドフルネス認知療法に伴う有害事象の実態調査（第一報）-自由記述式アンケートにおけるセッションごとの不快体験の分析-
３．学会等名 第5回日本マインドフルネス学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 木村範子，河野佐代子，大和田陽子，田中謙二，藤澤大介，林聖純
２．発表標題 高齢者認知障害サポートチーム(Dementia Support Team:DST)の活動報告
３．学会等名 日本総合病院精神医学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 中島美鈴、松永美希、岡田佳詠、大谷真、藤澤大介
２．発表標題 集団認知行動療法のクオリティ・コントロール
３．学会等名 第18回日本認知療法・認知行動療法学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 中島美鈴、松永美希、大谷真、久我弘典、藤澤大介
２．発表標題 集団認知行動療法治療評価尺度の信頼性と妥当性の検討
３．学会等名 第18回日本認知療法・認知行動療法学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 田島美幸、石川博康、吉原美沙紀、原祐子、藤里紘子、岡田佳詠、藤澤大介
２．発表標題 認知症の家族介護者を対象とした訪問看護師による認知行動療法プログラムの開発
３．学会等名 第18回日本認知療法・認知行動療法学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 藤澤大介、色本涼、田村法子、入江幸子、岩下覚、三村将
２．発表標題 知症家族介護者に対する集団認知行動療法プログラムの開発
３．学会等名 第33回日本老年精神医学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 藤澤大介、川原庸子、河野佐代子、木村範子、上田裕美、林聖純、岸真奈美、竹内恵美、三村將
２．発表標題 総合病院における自殺未遂者支援のチームビルディングと地域連携．第114回日本精神神経学会学術総会シンポジウム
３．学会等名 日本精神神経学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 木村宏之，岸辰一，岡田剛史，成田尚，田中輝明，町野彰彦，松本洋輔，藤澤大介，大橋綾子，光安博志，野間俊一，西村勝治，川嵜弘詔，小倉靖弘，尾崎紀夫
２．発表標題 精神疾患併存が肝移植レシピエントの生存に与える影響
３．学会等名 日本移植学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 朴順禮，藤澤大介，佐藤寧子，佐渡充洋，二宮朗，小杉哲平，瀧田結香，田村法子，森下純子，竹内麻理，橋口さおり
２．発表標題 医療従事者へのマインドフルネスプログラム(Mindfulness for health professionals building resilience and compassion:MHALOプログラム)の実施可能性に関する研究
３．学会等名 第23回日本緩和医療学会学術大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 藤澤大介
２．発表標題 対人支援に活かすマインドフルネス認知療法
３．学会等名 愛媛県心と体の健康センター認知行動療法研修会（自殺対策人材養成研修）（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 藤澤大介
２．発表標題 マインドフルネスをストレス・ケアにいかす
３．学会等名 第23回日本緩和医療学会学術大会PALランチョンセミナー（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 藤澤大介
２．発表標題 人生の意味とMeaning-centered psychotherapy
３．学会等名 第23回日本緩和医療学会学術大会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 藤澤大介、色本涼
２．発表標題 認知症介護にいかすマインドフルネスとコンパッション．認知症ポジティブ！山口塾
３．学会等名 認知症介護研究・研修東京センター研修会（招待講演）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計7件

１．著者名 中島　美鈴、藤澤　大介、松永　美希、大谷　真	４．発行年 2021年
２．出版社 金剛出版	５．総ページ数 150
３．書名 もう一歩上を目指す人のための 集団認知行動療法治療者マニュアル	

１．著者名 大野裕、堀越勝監修、藤澤大介	４．発行年 2020年
２．出版社 培風館	５．総ページ数 198
３．書名 集団認知行動療法の進め方	

１．著者名 宮下光令（編集）、藤澤大介、山本玲美子、田村法子	４．発行年 2020年
２．出版社 青海社	５．総ページ数 395
３．書名 緩和ケア・がん看護臨床評価ツール大全	

１．著者名 野島一彦・繁桝算男監修、藤澤大介	４．発行年 2020年
２．出版社 遠見書房	５．総ページ数 280
３．書名 公認心理師の基礎と実践　第22巻	

１．著者名 日本サイコオンコロジー学会・日本がんサポーティブケア学会編	４．発行年 2019年
２．出版社 金原出版株式会社	５．総ページ数 120
３．書名 がん患者におけるせん妄ガイドライン2019年版.	

1．著者名 佐渡充洋、藤澤大介	4．発行年 2018年
2．出版社 日本医事新報社	5．総ページ数 226
3．書名 マインドフルネスを医学的にゼロから解説する本	

1．著者名 日本自殺予防学会監修	4．発行年 2018年
2．出版社 へるす出版	5．総ページ数 272
3．書名 救急医療から地域へとつなげる自殺未遂者支援のエッセンス：HOPEガイドブック	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	朴　順禮 (Park Sunre)	慶應義塾大学 (32612)	
研究協力者	田中　智里 (Tanaka Chisato)	慶應義塾大学 (32612)	
研究協力者	田村　法子 (Tamura Noriko)	慶應義塾大学 (32612)	

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関